

**【出題内容:2015 年以降】**

2015 年より大幅に傾向変化 (例によって予告なし)		下線部語義 選択問題	内容理解 選択問題	空所補充 選択問題	分析
2016	第 1 問	7	6		文脈の中で語義を問う問題が 22/43 と半数を占める。 問題も英語で日本語の設問は一切なし。 単純な内容一致ではなく、本文からの推論問題も含む。
	第 2 問	10	6		
	第 3 問	5	7	2	
2015	第 1 問	5	6	3+1(文)	文脈の中で語義を問う問題が 21/43 と約半数を占める。 タイトル選択も含め考えさせる問題も出題。
	第 2 問	7	5+タイトル1		
	第 3 問	9	4	2	

慶應義塾大学の出題傾向変化は私大の中でも最も警戒すべきもので、過去には経済学部での自由英作文の出題、医学部での段落整序消滅、法学部でのインタビュー問題やイテオム問題の不安定さなどが挙げられるが、2015 年の薬学部での傾向変化は受験生にはまさに「寝耳に水」のようなものだったのではないかと。また 2016 年には「化学」で記述問題の出題が見られるなど傾向変化は英語に限らないので注意が必要。文学部以外は何が起こるか分からない怖さを想定しておく必要がある。今後は 2015 年以降への対策を基本にすべきであるが、2014 年までの出題に見られる問題のコンセプトも一応押さえておく方が無難。現行の慶應大入試英語では経済学部が一番近いが、経済の方が難易度は下。語義問題の多さが特徴で知識量 + 薬学系の長文の背景知識が問われる問題と言える。内容に関する問題は商学部のパラグラフ読解問題がよい練習材料になるはず。

## 【出題内容:2014年まで】

		同意文選択	同義語句選択	空所補充	T or F	指示語指示内容	和訳	他
2014	第1問	2	6	1	3/7	1		
	第2問		5	2	2/5	4		英文補充 1
	第3問			4(数字)			2	
2013	第1問			3			1	整序 3
	第2問			3			3	英文補充 4/語彙1
	第3問		2	1			1	
	第4問		1	3			1	
2012	第1問			3+数字1			1	整序 2/説明 30 字
	第2問			2				文整序 1/説明 15 字 40 字/10 字
	第3問	医療系単語:英々辞典の語義説明文から単語を選択する問題9題(やや難)						
2011	第1問	1		3(前置詞)				英文補充 4/単語書き取り 1/説明 8 字/10 字/内容完成1
	第2問		3				1	人物説明 1/説明 10 字/20 字/英文補充 1/整序1
	第3問			6(数字)				英文補充4
2010	第1問			12				整序 2
	第2問	2	2			1		内容 5/整序 1
	第3問	1		3				英文補充1/意見選択 5
2009	第1問			5				
	第2問			3		2	3	同意語 2/派生語 2 説明 10 字/説明 20 字/整序 1
	第3問						2	
2008	第1問	1		6	3/9			整序2
	第2問			5	3/8			整序 2
	第3問							空所語彙 5 英々語義 5
	第4問	語彙問題(易)5題						

【慶應大学薬学部合格へのカギ(2014年以前)】

文法の独立問題(空所補充や誤文訂正)の出題は見られず、語彙の独立問題も2008/2012以外ではない。長文形式の中で文法力を整序問題や空所補充問題で問うのが作問の基本スタンスと考えてよいだろう。文学部・医学部・看護学部とともに和訳問題や日本語での説明問題が出題されるので、記述力も問われる私大薬学系では最高レベルの問題と言えるだろう。GMARCH文系レベル突破が可能な模擬試験学力を土台にした英語の総合力がないと通用しない。また長文の内容も理系のものが多く、数字を入れさせる問題が出題されるのも大きな特徴。文系の学生が読めない類の理系英語ではないが、普段New Treasureなどで読む英文は文系タイプのもので、ある程度慣れておく必要があるだろう。まずはセンター試験レベルで80%以上の得点が出る基礎力を身に付けて、問題演習を多くこなし長文読解力を中心に総合的な英語力を磨いておこう。

長文の中で英語の総合力を問う問題。知識を問われている問題は知らなければ出来ないもので時間をかけ過ぎず、丁寧に時間をかけて考えれば出来る内容に関する問題を中心に解答を心掛けるのが基本的な戦術。その他の小手先のテクニックはほとんど通用しない。また、近年受験生のレベルが上がっているため、多少問題が難化しても合格ラインはさほど下がらないと考えた方がよいだろう。英数化のバランスのよい学力をつけよう。